

< 高付加価値型農業の実践を行っている事例 >

## マルチ栽培によるブランドみかんの確立

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	福岡県みやま市山川町 <sup>やまかわまち</sup> 伍位軒 <sup>ごいのき</sup>			
協定面積 81.4ha	田	畑 (100%) みかん	草地	採草放牧地
交付金額 936万円	個人配分			49%
	共同取組活動 (51%)			
	道路・水路管理費 (補修・改良費を含む)			35%
	共同機械購入・管理費			6%
	景観作物作付け費 その他			6% 4%
協定参加者	農業者38人			

### 2. 取組に至る経緯

本集落は、福岡県産ブランド『博多マイルド』、『マイルド130』を数多く出荷する福岡県有数のみかん産地であるが、年々高齢化する生産者、担い手不足等により産地としての存続が危ぶまれてきていたため、集落内外の担い手確保に向け、作業道の改良や付加価値の高いみかんを出荷し、生産性及び収益の向上を図ることを目的に平成12年度から本対策に取り組んでいる。

### 3. 取組の内容

平成17年度からの現対策では、集落内の作業道の拡張・改良を協定参加者全員で行うことをメイン事業として行っている。道路改良を行うことで大型重機の出入を良くし、園地改造が容易となり、シートマルチが設置できる園地を増やすことができた。

平成21年度末のシートマルチ設置目標を12.4haとし、付加価値の高いみかんを集荷できるよう取組を行っている。

また、地元小学校と連携してみかんの収穫体験を実施し、将来の担い手作りに向けた取組も進めている。



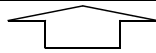
シートマルチ実施の様子



みかん収穫体験の様子

[ 集落の将来像 ]

農業従事者の高齢化や担い手・後継者不足により、将来的には集落農地の維持管理が困難になることが懸念される。作業道及び園地改良により農作業の軽減、付加価値の高いみかんを出荷することで、生産性及び収益性の向上を図る。魅力ある集落を目指すことで、集落内外からの担い手を求める。

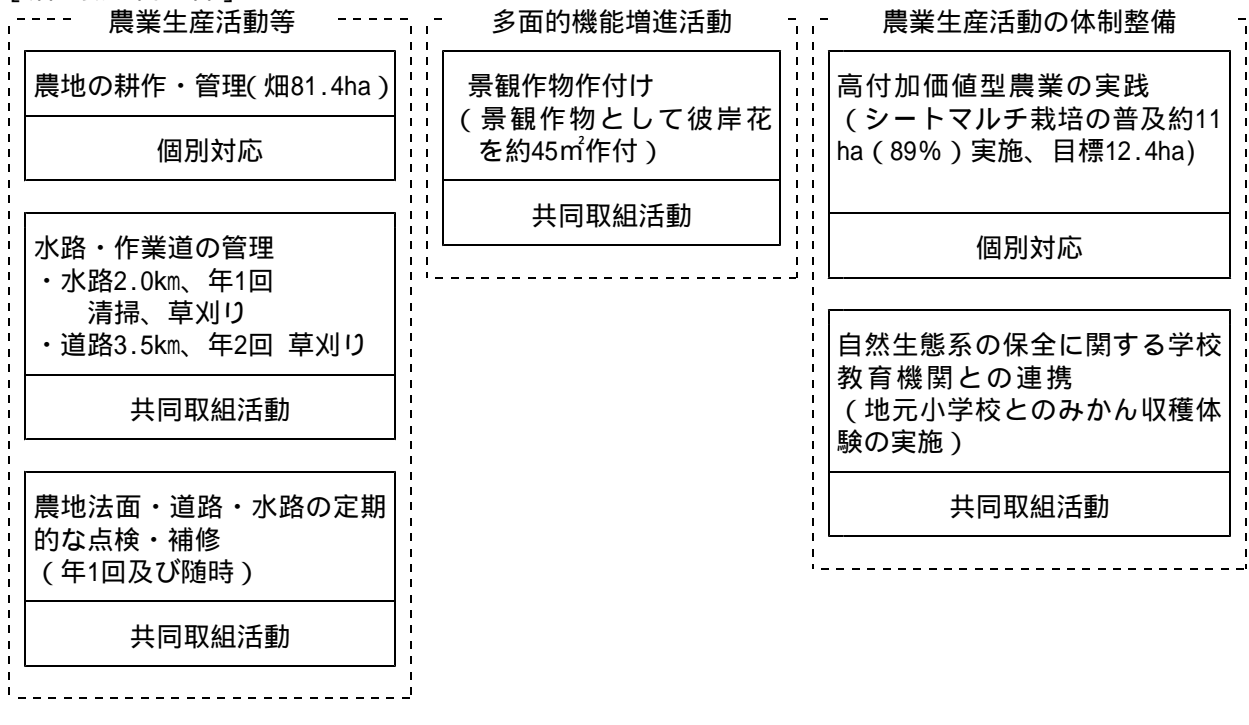


[ 将来像を実現するための活動目標 ]

平成17年度から作業道の改良を随時行っていく。また、園地改良を推進し、シートマルチの普及も併せて行っていく。

また、自然生態系の保全に関する学校教育機関との連携として、みかんの収穫体験及びみかん生産の実態を地元小学校と連携して取り組む。

[ 活 動 内 容 ]



4 . 取組による変化と今後の課題等

これまでの取組による効果として、安価で効果の高い園地改良を行うことができた。

また、園地改良やシートマルチの普及が進み、農作業の軽減や付加価値の高いみかんを出荷でき、協定参加者の営農意欲を増すことができた。しかし、急速な園地・道路改良により排水対策が遅れ、下方集落への土砂災害発生が懸念される。

今後の課題としては、担い手への農地集積、既耕作放棄地、排水整備を含めた集落全体の園地整備を行う必要がある。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

道路補修・改良事業

( H17実績0.0km、H18実績0.5km、H19実績0.7km、H20実績1.2km )

高付加価値型農業の実践(シートマルチの普及)

( 当初4.2ha、目標12.4ha(協定農用地の10%増)、H18実績9ha、H19実績9ha、H20実績11ha )

自然生態系の保全に関する学校教育機関との連携

( 地元小学校と連携してみかん収穫体験を実施(参加人数 H19年度66人、H20年度68人) )